

福島っ子ウィンターキャンプ 2012



～今飛び出せ！新たな五感～

期間：2012年12月23日～30日



● もくじ

福島っ子ウィンターキャンプ2012

- ▶ はじめにP.1
僕たち私たちの生活 ～8日間の歩み～
体感
季節感
キラキラ感
達成感
信頼感
一体感

- ▶ 子どもリーダーの成長 P.11
子どもリーダーとは

- ▶ 子どもアンケート P.15
しょうらいのゆめはなんですか？
おとなの人たちにおねがいしたいことはなんですか？

- ▶ むすびに P.19
保護者から
協力者から
寄付して下さった方々の笑顔コーナー





忘れられぬ過去がある。
感じる日々は止められない。

● はじめに

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
ウィンターキャンプ副隊長 吉村康範
南山大学 4年



「バスが見えたぞー！！」

バスから降りてくる子ども達を迎える瞬間がくると、子ども達がどんな表情を浮かべて降りてきてくれるのかなど、色んな想いがめぐっていきます。そんなことを考えているうちに、バスが到着し子ども達は楽しそうな表情や長時間のバス移動に疲れた表情などを浮かべつつも、元気いっぱいバスから降りてきました。そんな子ども達が私たちのもとに駆け寄ってくる姿が、今でも目に焼き付いています。

この8日間にわたるキャンプの中で、私は子ども達の様々な表情を見てきました。喜びに満ちた表情、外で遊んで疲れ果てた表情、そして日々抱える不安を我慢できず、スタッフの胸で泣き出してしまった子が見せたどこか安心した表情…。

そんな子ども達を見て、私達はこのキャンプの必要性を強く感じました。

福島の間と向き合う子ども達にとっては、きれいな雪の結晶も、冬空に輝く星も、そこに飾られている絵を見ているのと何も変わりません。

触れることのできない、食べることのできない、遊ぶことのできないモノの前で子ども達は精一杯“我慢すること”を覚えようとしています。

家では甘えん坊の子が、放射能の影響によって親元から離れ、一人でこのキャンプへやってきて8日間を過ごすことは、とても勇気のいる一歩だったと思います。

子ども達が勇気のチカラを信じて踏み出したこのウィンターキャンプは、様々な出来事が起きましたが、誰一人欠けることなく福島の地へ帰って行きました。このキャンプで養った心はやがて子ども達の支えとなり、強く成長していってくれると信じています。

● 僕たち私たちの生活 ～8日間の歩み～

日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27	28	29
	朝の準備	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆	朝の準備	朝の準備 ☆	朝の準備 ☆
	探険ツアー	自由時間	自由時間		トマトのお話	大掃除
加子母到着 オープニング	クリスマス コンサート	クリスマス パーティー	駄菓子屋さん	*スキー *スケート	*松ぼっくり アート *タイルアート *カレンダー作り	フィナーレ
明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝	明日の準備 就寝

30

朝の準備

記述されているプログラムすべてに子ども達全員が参加しているわけではありません。

子ども達の自主性に任せ、選択性としています。

☆ …宿題を最低1時間行った日 * …選択性のイベントを行った日

加子母出発



● 体感

「君の家はキャッチボールできる？」

「僕のところはまだ線量が高くてできないから、早くキャッチボールがしたいんだ！」
これは、雪が降るのをじっと眺めていた2人の会話です。

福島の子供たちは震災と原発事故から1年9ヶ月が経った今でも外で遊べず、家の中でDVDを鑑賞したり、テレビゲームをして過ごしています。

子供たちは『外で遊びたい！』と思っても、『お父さんお母さんに迷惑をかけたくない』という気持ちから、本当の自分の感情を抑え込んで生活しているということが、子供たちの言葉から分かります。

私達が子供の頃は、1日の授業が終わると、ランドセルを置いて日が暮れるまで校庭や公園でよく友達と走り回っていました。

しかし、外で遊ぶことができなくなっている子供たちは、“いまこの時”を体で感じる事ができなくなっています。



加子母に到着して間もない頃、子供たちはあいさつをする声が小さく、ご飯をおかわりする子もいませんでした。しかし、自然の中でみんなと思いきり体を動かすうちに、子供たちは普段感じる事のできない感覚を全身で感じ、自分の気持ちを素直に表現するようになりました。

「おいしい！」と腹の底から声を出し、たくさんの子がおかわりをするようになり、子供たちがご飯を食べる量はキャンプが始まったころに比べて3倍に増えたのです。



子供たちにとって“体で感じる事”は、まさに“心で感じる事”そのものです。

便利なモノに囲まれ、自分の体で感じる事が少なくなってきた現代の私達に、この震災は何を伝えようとしているのでしょうか。

● 季節感

昨年のウインターキャンプで、雪に触れながら「来年はシロップを持ってきて食べたいね！」と子ども達と約束をしました。

そして今回、子ども達は真っ白な雪を手に取り、メープルシロップをかけて頬張り、昨年の約束が果たされ、どこか満足げな表情が見受けられました。



みんなが雪だるま作りをし遊んでいる中、手のひらに舞い降りる雪をそっとのぞいている女の子がいました。隣の子に「雪の結晶って一粒一粒違うんだね！」と手を広げて見せると、その子は「あっ！本当だ、結晶って違うんだね！」と目を輝かせて答えました。

“冬”を自分の目で見つけたことで、子ども達を感じる世界は今までよりも一回り大きくなったことでしょう。

みなさんは、雪の結晶を手に取り、その一粒に目を向けたことはありますか？

冬に雪を触ったり、夏に虫を捕まえるなど、“季節”を感じることで、子ども達は自然の豊かさや生命の大切さを自分の肌で感じることができます。

これは教科書だけでは学べないことであり、“感じる心”が豊かな子ども達にとって特別な意味があります。

20年後、子ども達が親となる世代になった時、次は自分の子どもに自然の豊かさや生命の大切さを教える時が来ます。

自分の肌で感じ、その感触を確かめることは、子ども達の成長だけでなく、次の世代の子ども達の成長にもつながっていくのではないのでしょうか。



キラキラ感

子ども達にとって、キャンプでの一大イベントであるスキー、スケート。
前日の夜から楽しそうに荷物の準備をしている子、遠足に行く前日のようにワクワクして夜眠れない子…。子ども達にとって、この日がどれだけ待ち遠しかったことでしょう。

子どもたちは、雲一つない真っ青な空の下、澄んだ空気をいっぱい吸いながらスケートリンクへと駆け出していきました。

みんなが上達していく中、3年生の男の子が、何度も転んでは立ち上がりを繰り返していました。なかなか滑ることができず、それを見た4年生の男の子がそっと寄り添い、優しく手を取ると、二人は並んで氷の上を滑り出しました。



震災以降、外で遊ぶことが困難になり、多くの活動が制限されている中で、相手のことを考え、思いやる心が忘れられようとしています。

人とのコミュニケーションは、肌や心の温もりが伝わることによって、人間味や愛情を感じられます。そこに、心から相手のことを思いやる気持ちが込められることで、より深くなっていきます。

“困っている人を助ける”

まっすぐに差し伸べられたその手は力強く、混じりけのない純粋な気持ちが込められていました。

一步一步ともに歩む彼らの後ろ姿から、キラキラとした子ども達の優しさ、そして強さを感じました。



● 達成感

本来ならば、家族と一緒に暮らすクリスマスの時期に、子ども達は家族のもとを離れ、岐阜県でのキャンプに参加しました。

福島に住む家族と離れて生活するのが嫌でも、10年、20年先のためには、今保養キャンプに参加することが子ども達の健康にとって、とても大切なことです。

遊びだけじゃない、福島に住み続けるために必要な保養キャンプは、最低で年間30～40日、しかも、微量の放射線の影響を受けて暮らしている子どもたちにこそ、効果があると、科学的に証明されています。

親元を離れ、自分の力で生活する中で、子ども達は“今自分が乗り越えなければならぬことは何か”という大きな壁に直面し、そのたびに自分と戦い、解決策を見つけ出していきます。ある時には周りの仲間の力に励まされ、涙を流しながら、力を振り絞って壁を乗り越えていくことも少なくありません。

キャンプも終盤となった日の昼食の時間に、嫌いなトマトをどうしても食べられない男の子がいました。何度挑戦しても食べられず、うつむいてしまった男の子に、周りの子ども達から、「がんばれー！」「絶対食べられるよ」と次々に声援が上がりました。男の子が勇気を振り絞り、大粒の涙を流しながらトマトを口に入れた瞬間、周りにいた子ども達やスタッフからワッと声上がり、拍手が沸き起こりました。

周りに助けられ、“嫌いなものを克服する”という大きな壁に立ち向かったこの男の子の中に、“次は自分が助けよう”という大きな目標が生まれました。

そんな彼の将来の夢は、“支援団体”に入ることです。



この男の子の他にも、自衛隊や医師・看護師、人を助けられる人になるという夢を持っている子ども達があります。子ども達の心は日々“その子のペース”で成長していきます。その過程で、子ども達が掲げる目標は一人ひとり違います。子ども達の持つそれぞれの目標に手が届いたとき、それが大きな達成感につながります。

◎ 信頼感

福島から到着した子ども達は、心のどこかにいらだちを抱えているようでした。そのいらだちは心の中だけでは収まりきらず、友達を傷つけたり、些細なことですぐにケンカが起こるなど、言葉だけでは伝えきれずに行動となって表れました。

そんな中、全員の子を集めて話をしました。

「地震、津波、原発事故で、悲しい思いをした人は手をあげなさい」と言われると、子ども達はまっすぐな目で前を見つめ、全員が手をあげました。その時、周りのみんなを見て、子ども達は“ここに来たみんなは、同じ気持ちでいるんだ”と感じ取ったはずでした。

「人を救いなさい。そして、強くなりなさい」

今、辛い気持ちを自分の力で乗り越え、助け合って生きていかなければならない時なのだと、スタッフは子ども達の心に投げかけました。この言葉を聞いて、子ども達は静かに涙を流しました。

このキャンプに参加している子ども達は、一生忘れられない辛い気持ちを一度は経験しています。

そんな子ども達にとってこのキャンプは単に連れてこられたのではなく、自分を成長させるために自ら選んだ道でもあります。



生まれる前から“安全”だと信じられてきた原発とともに生活してきた福島の子達にとって、震災による原発事故は子ども達の信頼を大きく裏切る出来事でした。

今もなお福島で暮らす子ども達にとって、“人を信じて頼る”ということを本気で教えてくれる人の存在が必要です。

子ども達にこの先、一人でも信頼できると思える人がそばにいてくれることが、私達の願いでもあります。周りの友達や大人を“信じよう”と感じた子ども達の気持ちは、大きな心の支えになるはずでした。



人を信じ頼ること、そして自分を信じることは何よりも子ども達がこれからの未来を生きる強さにつながっています。

震災や原発事故が起き、何を信じればいいのか大人でも分からずにいる今、子ども達が私たちにただ信じることの尊さを教えてくれました。

○ 一体感

震災以降、福島県ではコミュニティが崩壊している地域が数多く存在し、そこには、今でもまだたくさん子ども達が暮らしています。

子ども達には、福島に残るのか、放射能の影響の少ない地域に疎開をするのか、それを自分の意志で選択することはできません。

昨日まで、同じ教室で勉強していた友達が、故郷を去り、転校し散らばっていく友達に、福島に住み続ける子ども達は何を思うのでしょうか。

離れて会えなくなってしまった友達と再会することを理由に、このキャンプに参加する子もいます。震災前と同じく、大切な友達とまた笑って遊べるように、子ども達はキャンプが始まるまでの期間、辛いことがあってもそれを励みに生活をしています。

全身で感じ、気持ちを表現すること
自然、生命を感じ、伝えること
相手のことを考え、思いやること
心を強くし、人を助けること
仲間を信じ、頼ること

五感の全てを使い、体と心で感じた“新たな五感”は、子ども達にとって免疫力を高め、放射能に負けないたくましい体と、豊かな心を創りました。

この8日間で子ども達は、ぶつかり合い、葛藤し、涙を流し、そして認め合って、一つになりました。この場にいた誰もが、見えない未来があったとしても“みんなと一緒に前を向ける”と思ったことでしょう。

子ども達にとって、本当に必要なことを今一度振り返って、大人も一つになる必要があるのではないのでしょうか。



子どもリーダーの成長



“自分には何ができるだろう”

導き出した答えは、共にチャレンジすること

● 子どもリーダーとは

愛チカラキッズキャンプは今回で4回目となりました。

今までのキャンプの子ども達は、キャンプに参加する“お客さん”でした。

今回のキャンプでは、子ども達が子ども達自身で悩み、考え自分たちで創り上げる喜びを感じるキャンプになるように、各班の中から1人ずつ、子どもリーダーという役割を決めました。

毎日ミーティングを重ねながら、リーダーが自分たちで『良いキャンプにするにはどうすればいいか』を考え、班のメンバーだけでなくキャンプ全体を引っ張ってくれました。

当初は、『本当にできるのか』という戸惑いや、「どうして自分がやらなければいけないの?」という声もありました。

1回目の子どもリーダーミーティングでは、自分から発言する子はほとんどおらず、2回、3回と毎日話し合いを重ねるうちに、少しずつ自分の気持ちを伝えようとするリーダーが増えてきました。

“みんなのために、自分ができることは何か”

リーダー達は毎日ひたむきにこのことを考えました。

キャンプも後半になると、スタッフよりも早く班のメンバーに「まっすぐに並んで」と声をかけたり、食事の前に班をまとめ、「今日は作ってくれた人に感謝して食べよう」と話すリーダーの姿が見られました。



ある時、自分の班を1番に整列させたリーダーに「さすがだね!」と声をかけると、その子はどうだと言わんばかりの笑顔を見せてくれました。その姿は生き生きとし、子どもリーダーという役割に誇りを持っているようでした。

キャンプが終わり、福島に帰れば、一人ひとり違う環境での暮らしが待っています。子どもリーダー達は、“自分のため”ではなく、“みんなのため”に何かをすることの大変さが、喜びに変わることを学びました。



1 班リーダー
鈴木 陽奈 (小6)

今日の目標
命一杯五感を感しる。

班に低学年と高学年が混ざっていて、低学年の子には難しい言葉を使っても伝わらないので、簡単な言葉で説明しなければいけないから大変だった。でも、話していくうちにどんな言葉を使えば伝わるかわかってきた。福島に帰っても、学校の縦割り班で低学年とふれあうことがある。今までは、はしゃいでいる子をまとめるのが大変だったけど、コツをつかんだのでこれからはできると思う。

まとめ
くつをなうべる
・ 時計を見て行動する
・ しつこいことをする
・ リーダーが見て見せよう
・ オスダツに言われる前は
・ 5分前行動

並ばせる時が一番大変だったけど、みんなに手本を見せなきゃいけないという責任感を学んだ。福島に帰っても、学校の縦割り班で小さい子の面倒をみるので、責任をもって生活したい。ミーティングでは、自分達の班の反省や目標を決められたし、ミーティングがあったほうが次の日にしなくちゃいけないことがわかったのが良かった。



2 班リーダー
平中 衣織 (小6)



3 班リーダー
遠藤 帆乃香 (中1)

みんなをまとめるのは大変で、最初は不安だったけど、ちゃんと班のみんなが聞いてくれるようになって、不安もなくなった。福島に帰ったら、みんなの前で話すのは苦手だけど、積極的に発言できるようになりたい。ミーティングは緊張したけど、発言ができてよかった。みんなしっかり班の子をまとめているすごいと思った。

みんなの役に立つことをする
・ くつをなうべる
・ ゴミをみろ
・ ゴ飯の4倍
・ 約束を守る
・ 耳をさす余るのあし

反省点 ... 時間に遅く来たら早く並んで
いい点 ... 並ばせる事、食品のムダ

最初はみんなが言うことを聞いてくれなくて大変だったけど、年下の子への話し方を気をつけて、「時間に遅れるから早く並んで」などの声かけをすると並んでくれるようになった。福島に帰っても、小さい子には優しく言うことを気をつけたい。ミーティングでは、みんなの反省点を聞いて、自分の班も気をつけようと思えた。



4 班リーダー
秋谷 美静 (小6)



5班リーダー
佐藤 琴愛(小5)

明日は
すれちがった人にあいさつ
明るく、元気よくする日!

並ばせるときにみんなをまとめるのが大変だったけど、声をかけあうことでまとめることができた。ミーティングでは、他の班の反省点がよくわかって、もっとこうしたらいいんだとわかったのが良かった。

① 時計をみて行動したい
② あいさつをきちんとしてほしい

最初はみんなをまとめるのが大変だったけど、楽しかった。注意や指示の仕方を気をつければ、みんなが自分の言うことを聞いてくれたし、自分が笑顔でいることに気をつければ、みんなも明るくなった。これからも、もっと学んで成長したい。ミーティングでは、自分の感じたことをみんなに伝えられたし、その内容を班の子にも伝えることができた。



6班リーダー
菅野 愛衣(小4)



7班リーダー
渡部 桂子(小4)

※ふとんをきれいに畳むと大きい声を出す。
◎ならばせられたもっとできることをやる。
※元気がないこに元気をだせるようにする。

最初はみんなが言うことを聞いてくれなくて、なかなか並んでくれなかったけど、大きい声をだしたり、人数を数えたりして、並んでもらえるようになった。スリッパを並べるなど、小さいことでもお手伝いをすると、みんなの助けとなることがわかった。キャンプが終わっても、学校のトイレのスリッパを並べるなど、気付いたことをできるようにする。

土の21をはずすゆいかにと43232まのつ

みんなをまとめるのが大変だったけど、みんなはどうしたら話をきいてくれるか考えた。みんなをしっかりと集めてから話すことで伝わった。ミーティングの話し合いは難しかったけど、呼び掛ける方法など学べて良かった。



8班リーダー
齋藤 友護(小5)



9班リーダー
新妻 脩(小5)

みんなをまとめるのは大変だったけど、みんなとたくさん喋れて楽しかったし、人を助けることを学んだ。福島に帰っても、みんなをまとめたり、けんかをとめたりして人を助けたい。ミーティングは楽しかったし、勉強になったからよかった。

時間をまとめる。
しるはにせ
あ、さつをする。
かんとえをしるはにあるく

Q 泣いてる子がいるのに見えないでしよう。
Q 食べれる分だけ分けよう。
Q 女の子は心かかっている。
Q 整理整頓をしよう。
A 泣いてる子をしっかりと見てあげよう。
A 分けよう。
A 女の子は心かかっている。
A 整理整頓をしよう。

10班リーダー
高松 海人(小6)



今回のキャンプでは人との関わりが大切だと感じた。班で話し合ったり、出し物をみんなで考えたりしたときに、最初はみんなバラバラだったけど、話していくうちにまとまるようになった。福島に帰って、次は中学生になる。部活に入るつもりだから、部活でも人との関わりを大事にしていきたい。ミーティングは、他の班の良いところや悪いところがあったから、それを踏まえて自分の班も気をつけようと思ったので、やれてよかった。

子どもアンケート



全力で感じた日々
決して忘れない描いた夢

● しょうらいのゆめはなんですか？

人を助けられる人 サッカーせんしゅ

はいしゅさん 絵ちカラスタッフ♡
パティエール お医者せんしゅ！

かこうのせんせい フォンデザイナー 自衛隊

じゅういになてかせや病気の動物を助けたい！！

新聞記者 およりを作る人になりたい

おとうさんのように車やさんになりたい NBA

ほいくえんのせんせい。 あんせんなくらしをとてみたいです

画家 プロ野球せんしゅ

かんどしです。 大工さんになりたいです。

しえんせんせい ロボットを作る人

声ゆうさん ジェフケーせんしゅ お花屋せんしゅ

絵をかくのが すきだからデザイナーやまんがかたになりたいかな？

スケートのつゆ カメラマンが、パソコンやせんしゅ

● おとなの人たちにおねがいしたいことはなんですか？

マスクのないくらい、ほろしおせんのないくらい

外でじゆうに遊ばたい
たのしくすごしたい
また、キャンプをひらいてください。

放射能がはやくなくなるとよいように。

元氣よく、スポーツで遊びたい

また、このような楽しいキャンプをひらいてください。

外でたくさん遊びたいです。

福島のものが食べたいです。

↓
くだものとか

外で遊びたい

やっぱり、みんなでたのしく遊べるようにしてほしい。

海であそびたい 山のぼりしたい

またキャンプをひろげてくわすの。

外で思いっきり公園で思いっきり遊びたい

ほうしゃせんをなくしてほしいの

福島でいっぱいあそべるようにしてほしい
ほか...いろいろ

原発をなくしてほしい

これから未来をみんなを変えていきたいです。

外でもっと遊びたい

もう一回キャンプを開いてください

おとなの人が楽しくなうを分らないなと思っ
ます

ほうしゃせんをなくしてほしいの



外でおもしろい遊びたい

● むすびに

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ
学生副代表 小林明日香
至学館大学 4年



福島の子供達と初めて出会ってから1年4ヶ月が経った今回のウィンターキャンプ。私はある男の子の笑顔によって再び気付かされることができました。

キャンプの前半、どこか他人行儀で素を出すことが出来なかったその男の子は、徐々に“自然”と触れ合う事で、子どもらしい笑顔が満開となり、私はその笑顔に大きく感動しました。

そのとき改めて、子供達が失いかけているものを取り戻してあげたい、福島の子供達の笑顔がこれからもずっと輝いてほしいと強く思ったのです。

今回のウィンターキャンプのテーマである“今飛び出せ！新たな五感”～体感、季節感、キラキラ感、達成感、信頼感～は、子供の成長に欠かせない大事なものだと思います。子供達が大人になったとき、肌で感じたものや心で感じたものが宝物になり、人を思いやる心を忘れない素敵な大人になってほしいと願っています。

私達も、この“大事なモノ”を忘れないで福島に住む子供達と共に、これからも寄り添って生きていきたいと思っています。

最後になりますが、子供達がありのままの姿で生活を送れたことは、多くの皆様のご支援、ご寄付のおかげです。本当にありがとうございました。

福島県から一時的に生活の場を移すことで、子供達、そしてその家族のみなさんの心の負担が少しでも軽くなればと思い私達も日々活動しています。

皆様の温かい心が子供達の成長、そして私達愛チカラの成長にもつながっているのだと感じています。

将来、子供達には様々な困難や偏見と闘う時がくるかもしれません。そんな時には、こうした温かい家族・仲間がいたことをチカラにし、前を向いて進んで行ってほしいと思います。

今後とも温かいご支援をよろしくお願い致します。

○ 保護者から



小国からの咲顔
代表 大波尚美

震災から2年近くが経とうとしています。

今回のキャンプは初日から、色々と自分の心の中に秘めているものがこぼれ、小さなイライラが、ケンカや嫌がらせに繋がるケースが全体的に目立っていました。そのような時、スタッフの皆さんは子ども達と真剣に話し合い、問題の解決に向けていつも寄り添ってくれていました。本当に小さな事かもしれませんが、来た時よりも日に日に咲顔が増えたり、挨拶ができるようになってきたり、声が大きくなったりと、とにかく元気になっていくのが心に伝わってきた事が本当に嬉しかったです。

保養とは、一見“放射能から逃げてくる”ように思えるかもしれませんが、子ども達は“当たり前の生活”を、一部場所を変えて送りに来ているだけなのです。

今回も多くの支援者の皆さんの力をお借りして沢山の希望を創り出す事ができました。

ここに、保護者を代表し感謝の言葉を記させていただきます。本当にありがとうございました。



渡部友紀さん

外で体一杯に動き、心から笑い、感動し、日に日に瞳が生き生きしていく子ども達の当然、あるべき姿。キッチンに聞こえてくる笑い声、歌声。母として嬉しい時間でした。

ここでの意味ある活動を継続させていきたいと切に願います。



深澤美佐子さん

愛チカラウィンターキャンプに参加しました。

スタッフの皆さんと一緒に調理をし、活動するうちに子ども達の成長の理由がわかりました。

咲顔を見たい、その一心でそれぞれの仕事に真剣に打ち込む、その姿を見て、絆という大切なものを知ったのだと思いました。



平中しのぶさん

私は日々、薬と闘い塞ぎ込んでいる毎日から気分転換をする為に、初めて参加をしました。

不安と向き合いながらの食事隊での作業でしたが、食事の度に子ども達の元気いっぱいの挨拶や学生、スタッフの姿に励まされ、勇気と元気をもらった気がします！参加して実感したことは、子ども達だけでなく、親のキャンプ参加も必要と感じた事です。本当に楽しい時間をありがとうございました。



堂園かおりさん

今回キッチンスタッフとして活動したことをきっかけに、勤務先の労働組合研修会にて「保養プログラムの必要性」について紹介することができました。

キャンプに参加して、子ども達の溢れる咲顔と様々な感情に触れ、今まさに身体も五感も培われるときであり、保養の必要性がそこにあると感じました。

◎ 協力者から

株式会社 中島工務店
代表取締役 中島紀子



今年も福島の子ども達 came。50 人余り。

愛チカラの人達がちよくちよく来てくれるのもう間近になったのだなあと元気な子ども達 comes のを心待ちにしていた。12 月に入り大寒波が来て、雪もたくさん降ったので心配していたが、天気も良くなって安心した。

日曜日の夕方、ふれあいのやかたでの閉会式で子ども達と大勢のスタッフの人達の元気一杯の姿を見て安心した。

スタッフの一生懸命さには本当に頭が下がる。関心もし感激もした。

期間中ずっと温泉を汲んだ。かしも大杉の湯はミネラルも豊富でアトピーにも良く効くので日本中から汲みに来る。我が家も毎日ゆっくり入っている。とても疲れが取れるので是非入ってもらいたいと考えていたのだ。

いろいろな行事があつて忙しい毎日だったようだが私はそれにはタッチしていない。8 日間があつという間に過ぎて日曜日の夕方閉会式に出た。全員すごく元気一杯で安心した。子ども達は二度目のかしもキャンプで慣れたのかもしれない。今年も感動の閉会式だった。子ども達が泣きじゃくりスタッフも又泣く。私も会の始めからずっと涙が止まらなかった。

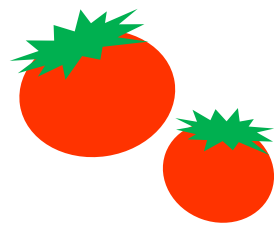
震災と原発事故から二年足らずも経った。

地震の対策も本格的に始まっていないが原発の対策は方向すら決まらない。国は除染、除染と言って大騒ぎしているが広大な山や平野に降って水に混り食べ物に入っ て口から体に入って蓄積されるのをどう考えているのだろうか。新政権は原発を再開するつもりだがこの子ども達を見ている私には到底理解できない。

電力事情がどうであろうとまず原発を止めてそれから電力をどうするか国民全員で考えねばならないのに。まして原発装置を外国へ売るとは何事だろうか。事故を起こし狭い日本が安心して住めなくなりつつあるのに。

この子ども達に夏もかしもへ来て欲しい。そして胸一杯空気を吸って腹一杯水を飲んで夏の日差しを一杯浴びてかしもの子ども達と一緒に遊んで欲しい。そう願っている。

寄付してくださった方々の 笑顔コーナー



浅田実穂さん 牛乳



浅田好弘さん 白菜・大根・キャベツ



小林さん お米&お手伝い



山口茂樹さん ニンジン・玉ねぎ



株式会社石川屋さん 肉・キュウリ等



夢島さん 肉・ごぼう・里芋



この他にも、おいしい食べものを届けてくれたみなさん、ありがとうございました。毎日おいしいごはんを食べて、外で友達と夕方までたくさん遊ぶことができました♪あと、こんなに大きいキャベツがあるなんてビックリしました！！

**おいしいごはんを
ありがとうございました！**



We are

愛千かろ

事務局



石原 なる美
(みんな)



栗田 尚通
(まろみち)



佐藤 匠
(息子)



柴田 結実子
(はな)



鈴木 理恵
(すー)



高嶋 辰宜
(たっつん)



樋口 一則
(お父ちゃん)



樋口 菊代
(きくさん)



前田 遥
(はるふいす)



御堂 大貴
(みどう)



横倉 亜美
(あみい)



吉村 康範
(よっしー)

生活隊



大井 優子
(たま)



片山 日香里
(びっかり)



鬼頭 将大
(きとう)



服部 誠司
(にんにん)



山田 紫布
(どれみ)



宇野 瑞帆
(ばちゃん)



大村 直美
(にゃー)



川井 恵美子
(ぐる)



佐藤 健太郎
(カーネル)



登 智恵
(ちゅーちゅー)



東松 広岳
(トーマス)



土海 ちあき
(どみー)



那須 友佳理
(園長先生)



袴田 翔大
(あきぐち)

食事隊

family

スタッフ

代表



石原 杏莉
(あんちゃん)



大波 尚美
(きゃんみ)



小林 明日香
(くろ)



山本 祐里
(ゆりい)

記録隊

子ども隊



小金沢 奈央
(なお)



鈴木 琢通
(類)



須田 元子
(もっち)



西尾 和花子
(わかちこ)



西野 功祐
(さばお)



平田 大援
(やったー)



宮崎 彰顕
(ざっきー)



保田 健志
(たけぼー)



矢野 江里
(エリーゼ)



山田 千代
(やまちょ)



吉村 郁乃
(のぎー)

保健隊



北原 直樹
(むすびん)



飯田 恵司
(メッシー)



井谷 優太
(工場長)



揖斐 信輔
(いびっち)



大島 巧
(おじサンタ)



望月 美紗貴
(ちゃー)

社会人 サポーター



志治 友規
(なんなん)



中村 浩
(中村さん)



丹羽 茂男
(丹羽さん)

We are family

ボランティアスタッフ
協力して下さった方々

伊藤 優(ゆう)	井本 竜矢	高嶋 雪子
大森 恭之(もみ一)	大井 孝市	土川 まい
加藤 沙耶(さーや)	大嶋 一郎	内木 哲朗
櫻井 翔(しょうやん)	太田 沙紀	中澤 恵
佐藤 智哉(CJ)	大類 猶人	丹羽 道明
重本 由貴(ゆきまま)	岡崎 菊雄	新美 健一
島立 翔(大将)	加古 忠利	西倉 良介
白鷺 智帆(やわら)	桂川 勝義	橋口 慶仁
高倉 彩奈重(さな)	神谷 すみ子	八谷 俊雄
高橋 恵子(KT)	熊谷 祐一	林 久義
竹内 正美(竹さん)	熊倉 健介	深谷 茂
中谷 真由子(まゆこんぐ)	熊崎 勝彦	藤岡 里奈
中村 優志(LP)	熊沢 修	星野 隼人
穂苅 翼(山賊)	加子母トマト生産組合 瀬瀬 健一	まなまな 沼田 真由み
横田 将俊(たぬき)	小林 英子	水溪 穰志
横山 真理奈(まりあん)	佐藤 竜也	宮川 暁声
渡辺 沙央子(わちよ)	尾張旭市議会議員 篠田 一彦	宮沢 反子
朝来 野悟	柴田 浩一郎	村瀬 祐治
浅田 実穂	柴田 信子	望月 一男
浅田 好弘	白鷺 みゆき	山口 茂樹
飯尾 歩	鈴木 慶子	渡邊 武士
伊藤 鋭司		(五十音順・敬称略)

Thank you

● 共催

- ・小国からの咲顔(福島県伊達市小国地区任意団体)
- ・愛チーム(愛知県学生団体)
- ・プロジェクト大福(福島県学生団体)

● 後援

- ・愛知県
- ・福島県
- ・福島県教育委員会
- ・福島県伊達市
- ・福島県伊達市教育委員会
- ・福島県市長会
- ・福島県町村会
- ・岐阜県高山市
- ・中日新聞社
- ・朝日新聞社

● 協力機関

- ・加子母研修交流施設「ふれあいのやかた かしも」
- ・学校法人 至学館大学 至学館短期大学部
- ・岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場
- ・モンドウス飛騨位山スノーパーク
- ・モンドウス位山スキー学校

● 協力企業・団体

アスゲン製薬株式会社／NPO as one／NPO 法人 てほへ／オアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市村の皆さま／オオノヤクリーニング／大府市健耕サポーター・受入農家有志／お好み焼き薫風／カネハツ食品 株式会社／株式会社 石川屋／株式会社 急運／株式会社 グランディール／株式会社 小出物産／株式会社 中島工務店／株式会社 マザーズリヴ／株式会社 丸市青果／株式会社 ミキ／株式会社 ヤオキスーパー／紙文総合販売株式会社／ころぼっくる／サニーサイドゴスペル名古屋／至学館大学レスリング部／スーパー生鮮館 ショッピングプラザ アトラ／Task ファーム／谷岡くにご事務所／たまご村／知多南部総合卸売市場／付知峡倉屋温泉 おんぼいの湯／名古屋城東ライオンズクラブ／名古屋名南ロータリークラブ／日進まちづくりの会／日本ネイチャーインテグレート協会／飛騨高山温泉 臥龍の湯 臥龍の郷／ヒートテック「10 万人応援プロジェクト」事務局／福岡郵便局／ミニミニ大府店／山下寝具株式会社／有限会社 マルトー食品／有限会社 水野養鶏場／夢島／若尾僚彦税理士事務所／若竹荘後援会／和太鼓 志多ら

● 『愛チカラ』とは

日本の未来を担う“学生”と“若者”が主役の活動です—

当団体愛チカラは、2011年3月11日に起きた東日本大震災をきっかけとして、愛知県内の25大学の学生と、社会人が集まっている復興支援団体です。

被災された方々と“共に生きる”ことを大切にし、被災地の声に寄り添って、“イマ”必要な支援を展開し、現在は保養キャンプ事業の他、ボランティアバス事業、チャリティイベント・出前授業など7事業を行っている団体です。福島県では、日常の生活に寄り添ったスポーツスクール事業を展開中です。



お問い合わせ

東日本大震災復興支援団体 愛チカラ

代表 石原杏莉 副代表 柴田結実子 御堂大貴
事務局長 鈴木理恵


〒460-0017 名古屋市中区大須 2-26-28 アイランド大須 201

T E L : 070-5623-6394

E-mail : aichikara2011@gmail.com

U R L : <http://www.ai-chikara.com/>

(愛知県防災ボランティアグループ 23 防危第 98-1 号)

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

この報告書は、国立国会図書館東日本大震災アーカイブプロジェクトに協力しています。



編集・構成 吉村 郁乃
山本 祐里
高嶋 辰宜
監 修 矢野 江里